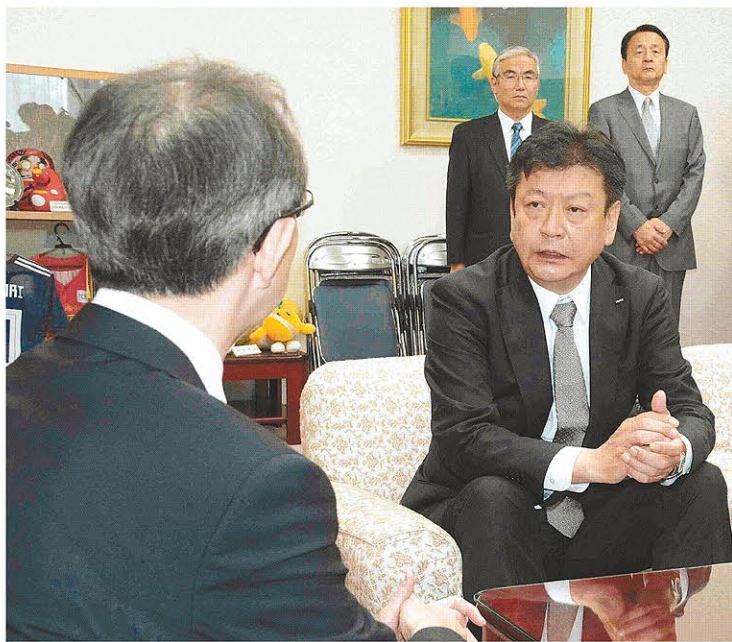


第2原発廃炉へ

東電社長、知事に表明

1〜4号機全て

東京電力の小早川智明社長は14日、県庁で内堀雅雄知事と会談し、福島第2原発全4基を廃炉とする方向



内堀知事に県内全基廃炉の方針を伝える小早川社長(右)14日午前10時ごろ、県庁

で検討すると伝えた。震災、原発事故以降、県や県議会などが再三求めてきた福島第2原発の廃炉を、東電ト

ップが初めて受け入れた重大な発言で、本県の復興は大きな岐路を迎えた。同日の会談では、冒頭、

内堀知事が「福島第2原発の廃炉は県民の総意で早期に判断してほしい」とあらためて要請。小早川社長は

「これ以上、あいまいな状況を続けるのは復興の足かせになる。福島第2原発を全基廃炉の方向で具体的な検討を進める」と応じた。これに対し内堀知事は「しっかり対応して形として全基廃炉を進めてほしい」と求めた。

県は福島第2原発の廃炉を「県民の総意」とし、東電、国に再三求めてきた。



福島第2原発1〜2012年撮影

福島第2原発 楡葉町と富岡町に立地する東京電力の原発。炉心溶融事故を起こした福島第1原発の南約12キロにある。4基あり、第1原発と同じ沸騰水型軽水炉(BWR)で、いずれも出力は110万キロワット。1982〜87年にかけて営業運転を開始した。東日本大震災の発生時は4基とも運転中で、地震に伴う津波の被害を受け、1、2、4号機は一時的に冷却機能を失ったが、復旧。炉心溶融などは免れた。